

2010年度、リハビリテーション室(以下 リハ室)は、「チーム力の強化とリハビリテーションサービスの質の向上をスローガンに定めた。

回復期リハビリテーション病棟(以下 回復期リハ病棟)における祝祭日及び、早出勤務体制の導入などを行い、リハビリテーションサービス(以下 リハサービス)の量および質の向上に努めた。

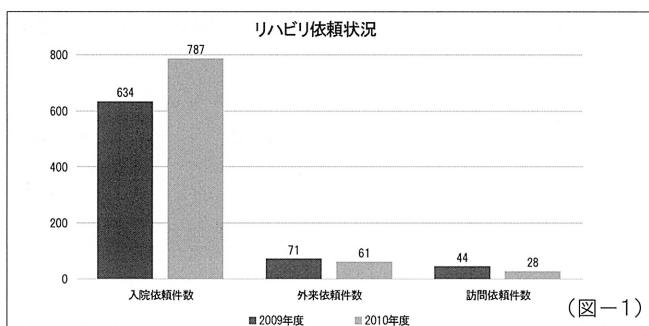
【リハビリテーション実施体制】

リハビリ室は専任医5名とセラピスト(理学療法士9名 作業療法士8名 言語聴覚士3名)20名の実施体制であった。

施設基準は、脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ(以下脳リハ)・運動器リハビリテーション料Ⅰ(以下運動器リハ)・呼吸リハビリテーションⅠ(以下呼吸リハ)・訪問リハビリテーション事業所(以下訪問リハ事業所)であった。

【リハビリテーション依頼状況】

入院依頼件数737件、外来依頼件数61件、訪問リハ依頼件数28件の合計759件であった。



(図-1)

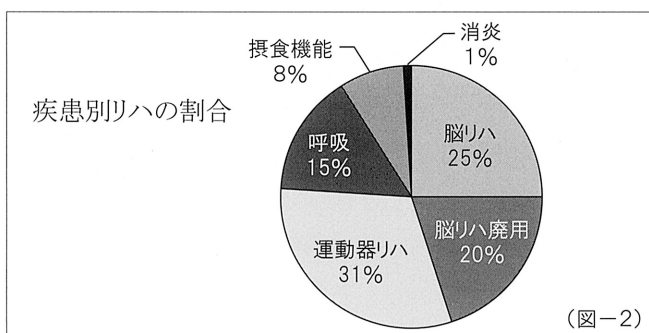
(患者属性)

①入院リハビリテーション(以下 入院リハ)

入院患者737名(男性370名 女性367名)。平均年齢78.1±12.5歳であった。疾患別リハ料別には脳リハ330名(脳リハ186名 脳リハ廃用144名)、運動器リハ226名、呼吸リハ113名、摂食機能療法59名、消炎9名であった。(表-1・図-2)

	脳リハ	脳リハ廃用	運動器リハ	呼吸リハ	摂食機能	消炎
疾患別	186	144	226	113	59	9

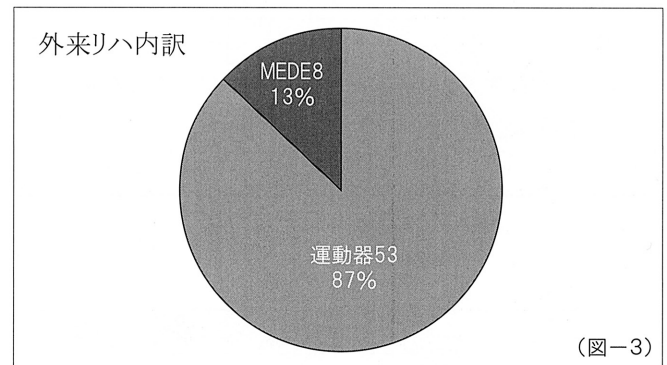
(表-1)



(図-2)

②外来リハ

外来患者61名(男性26名 女性35名)。平均年齢62.7±19.4歳であった。*外来リハにおいては、運動器リハおよび認知症検査(MEDE)のみの対応。



(図-3)

③訪問リハ

訪問リハ患者28名(男性10名 女性18名)。平均年齢81.1±11.2歳であった。

【リハビリテーションサービスの検証】

2010年4月1日より2011年3月31日までにリハビリを行い退院した患者651名(男性317名 女性334名)。平均年齢78.0±12.6歳を対象に在宅復帰率とBathel Index(以下BI)の変化について調査した。

■在宅復帰率

リハビリテーション対象者全体:73%

退院者651名(317名 女性334名) 平均年齢78.0±12.6歳

	人 数	割 合
自宅	475	73%
転院	59	9%
老人保健施設	24	4%
老人福祉施設等	35	5%
死亡	58	9%

(表-2)

一般病棟・亜急性期病床利用者:72%

退院者478名(男性242名 女性236名) 平均年齢78.2±13.0歳

	人 数	割 合
自宅	344	72%
転院	41	9%
老人保健施設	13	3%
老人福祉施設等	28	6%
死亡	52	11%

(表-3)

回復期リハビリ病棟利用者:76%

退院者173名(男性75名 女性98名) 平均年齢78.8±11.3歳

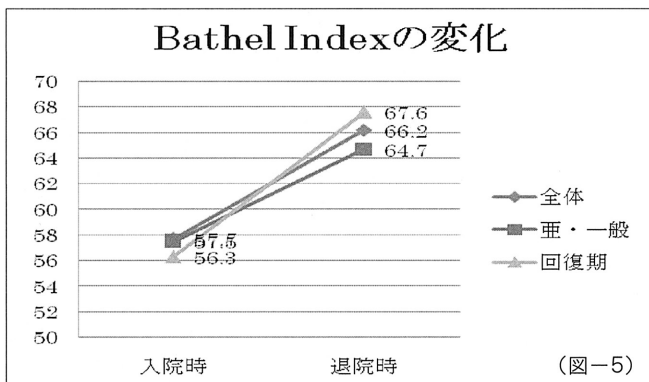
	人 数	割 合
自宅	131	76%
転院	18	10%
老人保健施設	8	5%
老人福祉施設等	10	6%
死亡	6	3%

(表-4)

■BIの変化

	入院時平均点	退院時平均点
全体	57.7	66.2
亜・一般	57.5	64.7
回復期	56.3	67.6

(表-5)

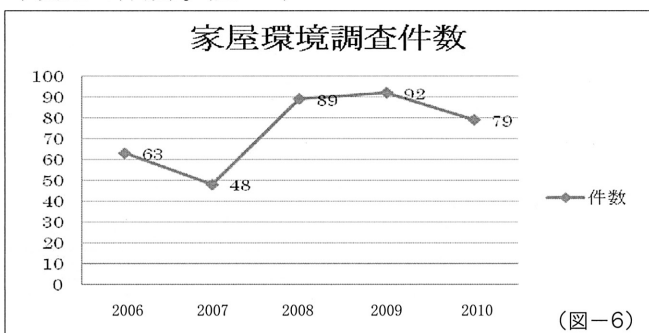


(図-5)

【在宅復帰支援】

■家屋環境調査件数

2010年度に施行した家屋環境調査は79件であった(前年度比13件減)。(図-6)



(図-6)

■訪問リハビリテーション

訪問リハビリの実施体制は、作業療法士1名(病院兼務)、理学療法士1名(病院兼務)を配置している。2007年度より順調に訪問件数は増加してきたが、今年度は551件(前年度比291件減)であった。(図-7)



(図-7)

【今後の課題】

- ①回復期リハ病棟における365日リハ診療の開始
- ②一般病棟・亜急性期病床におけるリハビリ機能の強化
- ③地域包括的リハビリテーション事業の構築
 - ・予防的リハビリテーションの実施(宇城市介護予防事業への参画)
 - ・訪問リハビリテーション事業の検討(短期集中リハビリテーション事業の検討・訪問スタッフの専従化を含む適切な人員配置の検討)
- ④当院リハビリテーション部門の広報・啓発活動
- ⑤新施設基準取得の検討(がんリハビリテーション・心臓リハビリテーション)

2011年度には、理学療法士2名、作業療法士3名のスタッフが加わりセラピスト24名(理学療法士11名 作業療法士10名 言語聴覚士3名)によるリハビリテーション実施体制となる。

当院の医療圏においては高齢化、過疎化が進んでおり、リハビリ対象患者の平均年齢も78歳を超えた。このような地域環境の中、私たちリハビリスタッフは、「一人でも多くの患者さんが住みなれた地域や家に戻る事が出来るように支援する。」をモットーに日々診療にあたっている。

更に充実した、質の高いリハサービスを提供するために回復期リハ病棟における365日リハサービスの提供、予防的リハビリ事業の開始、訪問リハビリの事業拡大等を計画している。

多種・多様化する地域のリハビリテーションニーズに応えられるようにスタッフ一丸となって取り組んでいきたい。